

# 長野農業農村支援センターだより

令和8年5号

## 「つどえ！農業人 in 長野 長野地域農業青年プロジェクト 活動・意見発表大会」を開催しました！



令和7年12月17日に長野合同庁舎にて、須高農業青年クラブ、長野市農業青年協議会及び長野農業農村支援センター主催による、青年農業者の相互研鑽を目的としたプロジェクト活動・意見発表大会「つどえ！農業人 in 長野」を開催しました。

意見発表の部では、3名の方に発表いただきました。将来どういったことをやりたいか自分の考えを述べていただき、今後の地域農業を担っていく意欲が感じられました。

プロジェクト発表の部ではデイワークとの作業分担、労働力確保、選果場のレイアウトについての3題発表がありました。どの課題もこれまで自分が取り組んできた活動について分析を行い、これまでに分かったことを踏まえて今後の活動についても考えられていました。

意見発表・プロジェクト発表各1題ずつ令和8年2月12日に開催される「長野県農業を担う若人のつどい」の発表課題として推薦されました。

推薦されたお二人の内容のバージョンアップの支援に取り組んでいきたいと思います。

発行 長野農業農村支援センター 技術経営普及課

〒380-0836 長野市大字南長野南県町 686-1

電話 026-234-9536 FAX 026-235-8393

Eメール nagano-aec@pref.nagano.lg.jp

URL <http://www.pref.nagano.lg.jp/nagachi/nosei-aec/index.html>

## 目 次

○農作物の生育状況	1
○特集 「過去の雪害から学ぶ雪害対応対策について」	3
「補助事業について」	11
○新規就農者の紹介	12
○地域のできごと	13
○情報提供	15

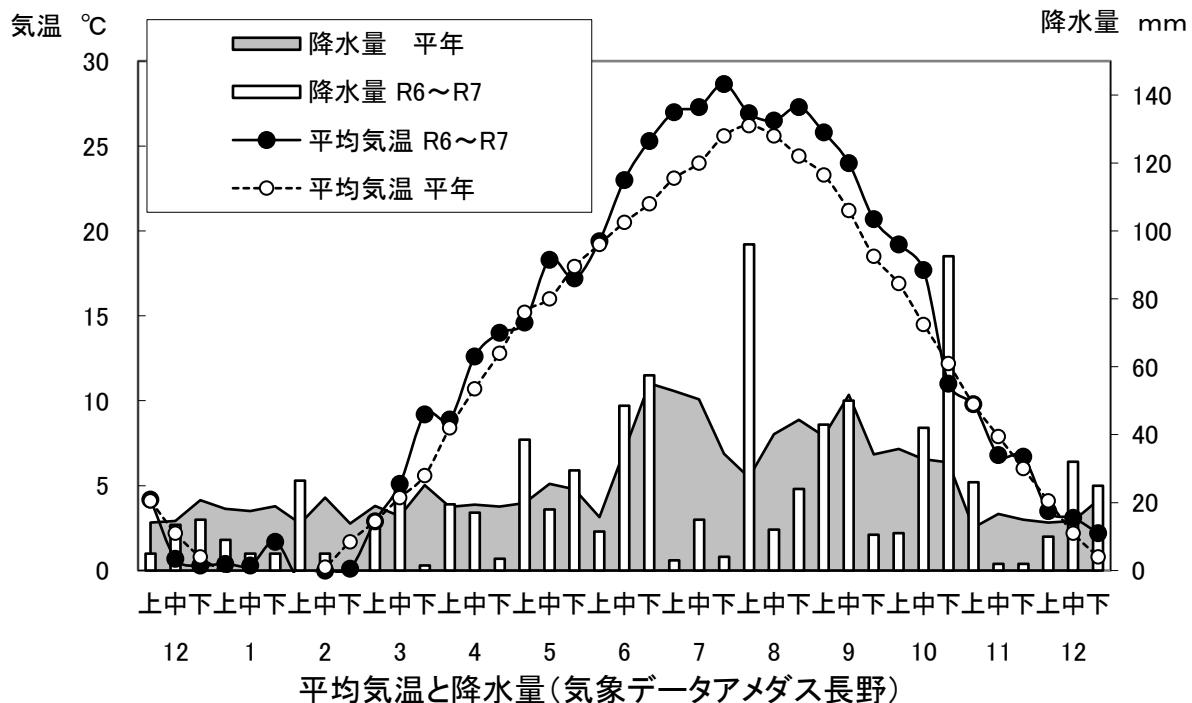


支援センターだより H P

## 農作物の生育状況（1月15日現在）について

令和8年1月15日  
長野農業農村支援センター

## 【気象データ】



## 【作物】

(1) 麦

大豆収穫作業の遅れから、播種作業も遅れ気味となった。11月は降雨が少なく、11月上旬は播種の麦は出芽遅れがあった。10月下旬は播種は生育旺盛だが、12月には平年並みに低下し積雪もあったため、11月下旬以降は播種の麦は生育が不足している。千曲市の11月上旬は播種の「シュンライ」は、4.5葉、茎数300本/m<sup>2</sup>程度。千曲市の10月下旬は播種の「ユメセイキ」は、6.1葉、茎数750本/m<sup>2</sup>程度。11月上旬は播種の「ハナチカラ」は3葉、200~400本/m<sup>2</sup>程度。12月は播種の「ハナチカラ」は、未出芽のものが多い。

## 【野菜】

## (1) アスパラガス

定点ほ場において、例年と同様の方法で貯蔵根をサンプリングし、糖度を調べたところ、ほ場間差はあるものの、全体としては前年比 113%で昨年より高い傾向にあった。養分転流期の高温により、根への転流が遅くハウス栽培では黄化が遅れていたが、11 月に温度が下がり転流が進んだ。一方糖度が低いほ場では本年の春どりの収量は低いと考えられ、早期の立莖により株の力を復活させ、夏秋どりを行うことが重要となる。

(2) 果菜類

燃料費の高騰によりハウス内の設定温度を下げたためか、全体に生育、着果、肥大等が遅れる傾向にある。ハウス内の点検を行い、暖房効率を高めるとともに、局所加温等の工夫を行い燃料費の削減を検討したい。

## 【畜産】

### 雪害対策について

#### (1) 畜舎全般

- ・屋根部への積雪量が多い場合は、直ちに除雪する。なお、命綱の使用や複数人で作業する等転落事故の無いよう安全確保を図って作業する。
- ・畜舎などへの道路は早めに除雪し、緊急時に対応できるようにしておく。
- ・破損箇所の修理を行い風雪の吹込みを防止する。

#### (2) パイプハウス式畜舎

- ・ハウスの耐雪補強として、中柱、水平引張線、筋かくい等を設置する。
- ・中柱は直径 10 cm 以上の丸太を 4 m 以内の間隔で立て、必ず台石を入れる。
- ・水平引張線は、8~10 番線の針金で 2 m 以下の間隔で張る。
- ・筋かくいは鉄パイプを使用する。

#### (3) 停電対策

- ・雪の付着、凍結等で電線が切断しやすくなるため、長時間の停電に備えて、小型発電機等の手配先の確認や機器点検を事前に行う。
- ・酪農で停電した場合は、給水制限と濃厚飼料の給与を控える。手搾りが可能な場合は、泌乳前期を中心に搾り泌乳後期は乾乳させる。

# 過去の雪害から学ぶ雪害対応対策について

## ➤ 過去の雪害から学ぶ

過去の降雪についての統計データを見ると日最大降雪量（1日の降雪量において最大の値）のベスト10には平成17年（2005年）以降が4割を占めています。最近は暖冬と呼ばれることが多いですが、局地的に集中して雪が降ることはむしろ多くなっているといえます。過去の大雪災害の経験を生かしつつ、過去のデータを上回る大雪が降る可能性があることを意識して、雪害対策を行いましょう。

## ➤ 事前準備（降雪前）

施設点検・補強：ハウスのパイプ、基礎、谷樋、プレス（筋交い）の緩みや腐食を点検・補強、雪の重みに耐えられるよう構造強化する。

被覆材の調整：冬期間使用しないビニールハウスはフィルムを取り外す。防虫・防鳥ネット、遮光資材は雪の滑落を妨げるため、取り外すか、適切な展張に調整する。被覆材の破れや隙間も補修する。

排水対策：融雪水による湛水（たんすい）を防ぐため、排水溝を設置する。

資材・設備：作物がない場合は被覆材を外しておく。停電に備え、発電機の準備や、暖房機が正常に稼働するか確認し、燃料を十分に確保する。

## ➤ 降雪後・緊急時

降雪時の農地・農業用施設への見回りは、気象情報を十分に確認するとともに、次の点に留意して、事故の回避を最優先とする。

- ・見回りをする際は携帯電話を携行し、一人で対応しない。
- ・落雪や倒壊の恐れのある施設には内部には入らない。また、悪天候時は作業を行わない。
- ・ハウスの雪下ろし等を行う際は、複数人で行い、ヘルメット・滑りにくい靴を着用し、安全を確保してから作業を行う。

早期復旧：被害が出た場合は、安全確認後、速やかに破損状況を点検し、修復して室温を確保する。

畑作物の対策：畠（うね）周りの溝、畠の周囲に溝を掘り、雪解け水の通り道を作り、土壤への過度な水分吸収を防ぐ。

## ➤ 果樹類（詳細は過去の技術対策を参照してください。）

- ・積雪が予想される場合は、早めに樹体や棚の支柱の点検、追加の補強を行う。
- ・防鳥網等棚上の被覆物は、降雪前に必ず取り外す。
- ・樹上に雪が多くたまる前に、こまめに払い落とす。
- ・大雪となる前に、あらせん定を実施しておく

## ➤ 農業用ハウス・施設、畜舎等

ハウスの耐雪補強として、中柱、水平引張線、筋かい等を設置する。

（詳細は別紙：ハウスの構造強化対策を参照してください。）

- ・加温設備のあるハウスでは、雪の降り始めから15°C以上に加温し、内張りカーテンを開け、ハウス上部の融雪を早める。この際、燃料切れとなならないよう、燃料残量の確認、補給に留意する。
- ・加温設備のないハウスでは、ジェットヒーターや複数のストーブを入れる。その際は、周囲に燃えやすい物を置かない等、火災防止に十分留意する。
- ・屋根部への積雪量が多い場合は、直ちに除雪する。連棟ハウスの谷間の除雪や単棟ハウス間の除雪に特に注意する。なお、転落事故の無いよう安全確保を図って作業する。
- ・ハウス、燃料タンク、畜舎などへの道路は早めに除雪し、緊急時に対応できるようにする。

## 別紙1

# 生産者が自分でできる 補強資材等によるパイプハウスの構造強化対策

パイプハウス等においては、補強資材等(筋かい、タイバー、根がらみ、中柱、各部の有効的補強など)を有効な位置に取り付けることによってハウス構造の強度をアップすることが可能になります。

下記に具体的な補強資材等による構造強化対策を紹介します。

\*特記:下記掲載の参考標準価格は、間口6m×奥行55m=330m<sup>2</sup>(100坪)にて算出した材料費であり、工事費等は含まれておりません。

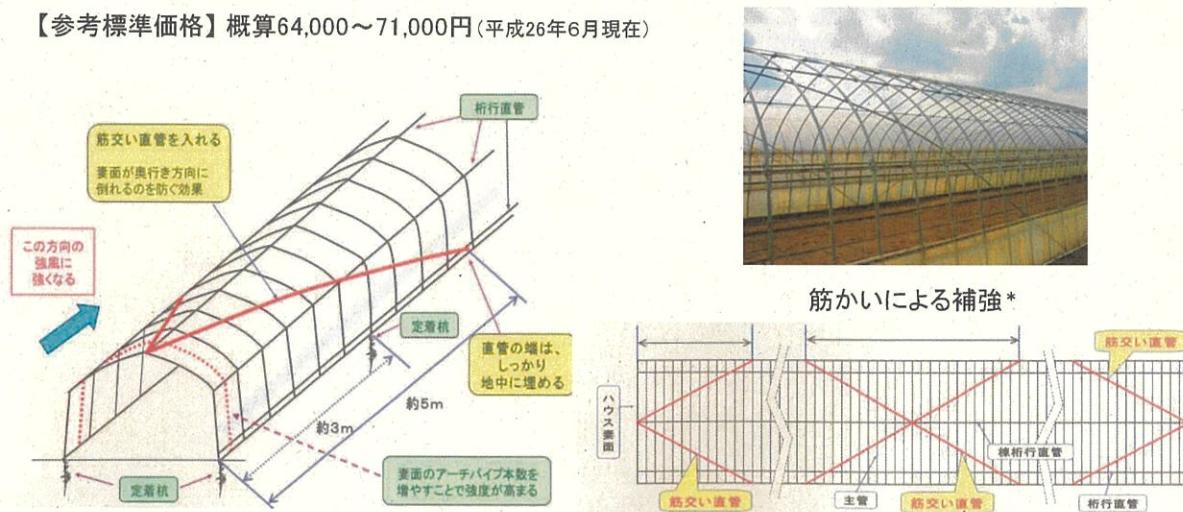
## 1. 筋交い直管による補強(耐力20%程度向上)

【目的】ハウスを剛強に固め、妻面が桁行方向及び間口方向へ倒れるのを防止する。

【設置上の注意】筋かい直管は、各アーチパイプと部品等で固定し、下端部は必ず地面に30cm以上埋め込むこと。

【設置効果】主管の耐力は筋かいを設け、横倒れを防止することによってハウス全体の**耐力が20%程度アップ**する。

【参考標準価格】概算64,000～71,000円(平成26年6月現在)



## 2. タイバー及び斜材でX型による補強

### 1) タイバーによる補強(風への耐力6%、雪への耐力43%程度向上)

【目的】アーチパイプの変形抑制を防止し、特に耐積雪強度をアップする。

【設置上の注意】軒から棟の高さを  $f$  とすると、軒から  $f/4$  の位置に取り付ける。

【設置効果】タイバーを全てのアーチパイプに取り付けた場合には、取り付けていないハウスと比較して、**風への耐力は6%程度、雪への耐力は43%程度**アップします。(4スパンに1箇所設置した場合)

【参考標準価格】概算85,000～97,000円(平成26年6月現在)

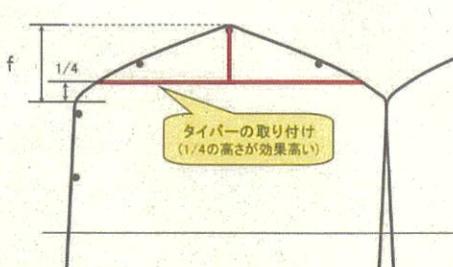
### 2) 斜材でX型による補強(風への耐力9%、雪への耐力65%程度向上)

【目的】アーチパイプの変形抑制を防止し、特に耐積雪強度をタイバー補強よりさらにアップさせる。

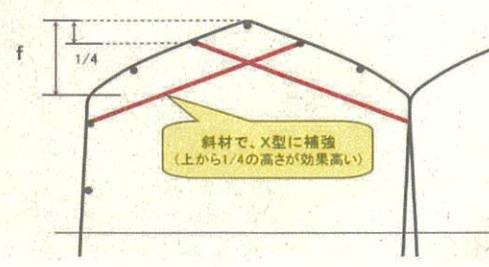
【設置上の注意】軒から棟の高さを  $f$  とすると、棟から  $f/4$  の位置と軒を結ぶように斜材でX型に取り付ける。

【設置効果】X型の斜材を全てのアーチパイプに取り付けた場合には、取り付けていないハウスと比較して、**風への耐力は9%程度、雪への耐力は65%程度**アップします。(4スパンに1箇所設置した場合)

【参考標準価格】概算120,000～130,000円(平成26年6月現在)



タイバーによる肩部の補強事例



X型の斜材による肩部の補強事例

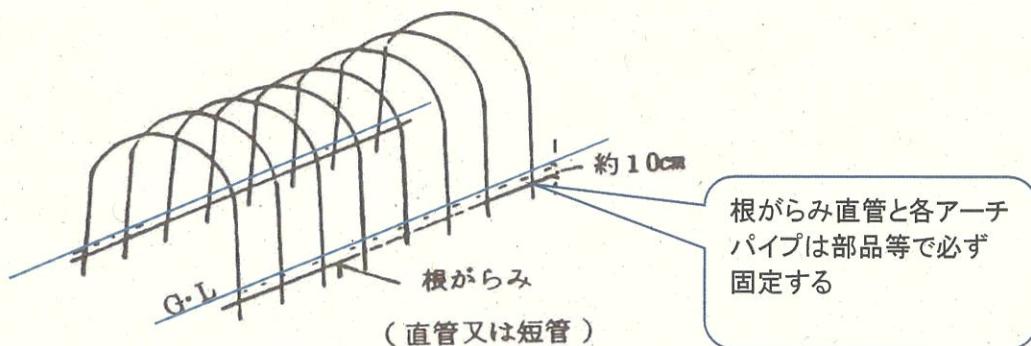
### 3. 根がらみによる補強（耐力が10%程度向上）

【目的】強風時のハウス主管の引き抜き力防止と局部的な積雪荷重に対して沈下防止する。

【設置上の注意】地盤面(G.L.)下10cm付近に根がらみ直管と各アーチパイプを部品等で固定する。

【設置効果】根がらみを取り付けた場合には、取り付けしていないハウスと比較して、**ハウス全体の耐力が10%程度アップ**する。なお、根がらみ設置は、地盤が軟弱な場合の対策としても有効な手段である。

【参考標準価格】概算56,000～64,000円(平成26年6月現在)



### 4. 中柱による補強（3m間隔に設置すると耐力が25kg/m<sup>2</sup>向上）

【目的】屋根荷重を抑える。

【設置上の注意】主管(桁行直管では効かない)の棟部または棟部を中心に対称位置に支えるのが有効である。

【設置効果】間口6mのハウスで、仮支柱を3m間隔にて配置した場合、1本の支柱で支える屋根面積は、

$$5.4\text{m} \times 3\text{m} = 16.2\text{m}^2, \text{ 積雪単重を } 1\text{kg/cm/m}^2 \text{ で、積雪深 } 25\text{cm} \text{とした場合、} 25 \times 16.2 = 405\text{kg}$$

結果、1本の支柱で400kgに耐える支柱の設置が望まれる。

【参考標準価格】概算80,000～100,000円(平成26年6月現在)

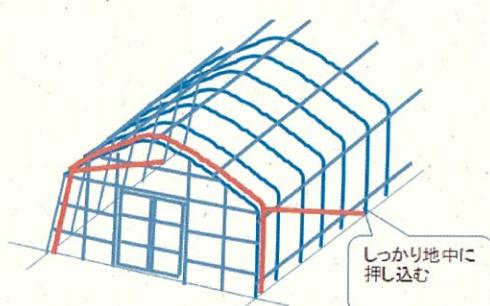


## 5. 各部(妻面、側面、水平方向、桁方向等)の有効的補強

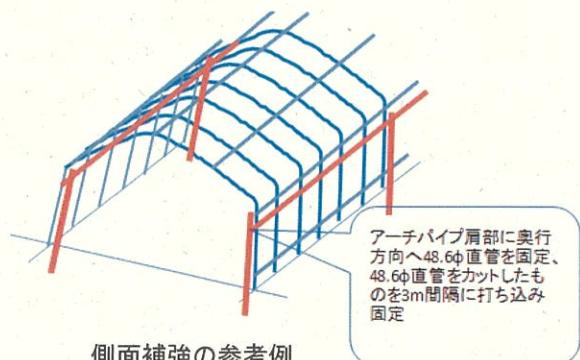
【目的】妻面・側面・水平ばり・桁ばり等の補強により、強風や上からの積雪荷重や堆積雪等の対策とする。

【設置上の注意】ハウス設置場所の条件等により風向き等を考慮した安価で有効な補強方法を検討する。

※下記に各部の有効的補強の具体例を示します。



妻面補強の参考例  
(風対策に有効)



側面補強の参考例



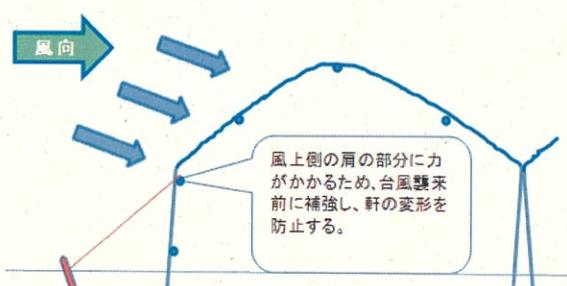
方杖による補強\*

## 6. その他(強風対策等)の補強

【目的】強風・台風等により破損しやすい箇所の補強により、ハウス全体の耐力をアップさせる。

【設置上の注意】ハウス設置場所の条件等により風向き等を考慮した安価で有効な補強方法を検討する。

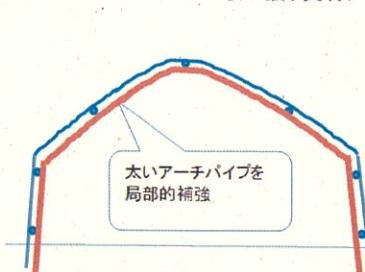
※下記にその他(強風対策等)の有効的補強の具体例を示します。



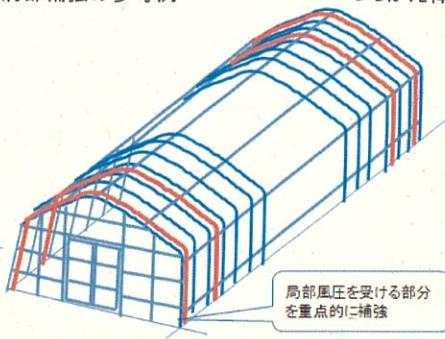
引っ張り資材による肩部補強の参考例



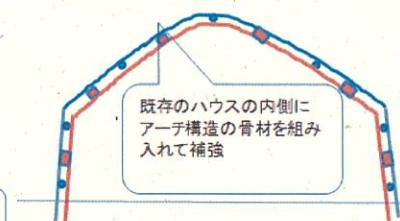
つかえ棒等による肩部補強の参考例



太めのパイプにて局部的に補強の参考例



局部圧力を受ける部分を重点的に補強



二重アーチによる補強の参考例

### 注意

必要以上に屋根部や側面部を補強するとハウス内の光量が不足し、作物の成長に影響を及ぼす可能性があるため、自分の地域にあわせた適切な補強を行いましょう。

# 果樹の雪害対策・融雪によるリンゴ枝折れ防止対策（第1報）

## 1 果樹全般

### (1) 樹体被害と棚の倒壊予防

- ア 降雪のつど、樹上の雪を払い落とす。
- イ 積雪が多い園地では、主幹周囲の雪の踏み込みを行う。
- ウ わい化りんごのトレリス、ぶどうの垣根は、最下段の張り線が雪の下（おおむね張り線の高さの2倍以上）になった場合、張り線が雪溶けで沈み込む力（沈降力）によって引っ張られて損傷する恐れがある。このため、張り線を掘り上げるように雪に溝を切る。

### (2) 枝の掘上げ、溝切り（雪割り）

- ア 大雪後は、雪が沈み込む力（沈降力）で枝が引っ張られて、樹体が損傷しやすくなる。この被害は大雪後に雪溶けや沈み込みにつれて発生し（おおむね1～2週間後から）、地面から高さ40～80cm、幅・左右50～80cmの範囲で生ずる。
- イ 早めに埋まった枝を掘り出すか、溝切り（雪割り）、融雪剤の散布を行う。なお、他県では、融雪剤を早期に散布することで、雪が軟らくなり、その後の掘上げ、溝切り（雪割り）の作業の効率がよくなることが観察されている。（詳細後述）
- ウ わい化りんご樹、垣根仕立てのぶどう樹、ブルーベリー（雪囲いしていない樹）などは、地上40～80cmの深さで主幹を中心に掘り上げる。地表面が露出するまで掘り下げる必要はない（図1）。
- エ 労力的に掘り出しが困難な場合は、狭い溝を空けたり（溝切り）、スコップで切れ込みを入れる（雪割り）程度でも沈降力の軽減に効果がある（図2）。

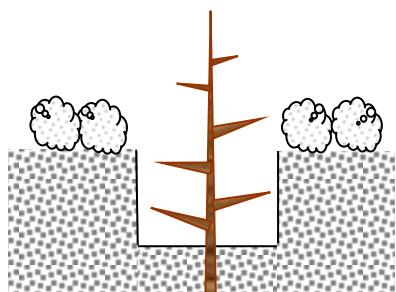


図1 堀上げ

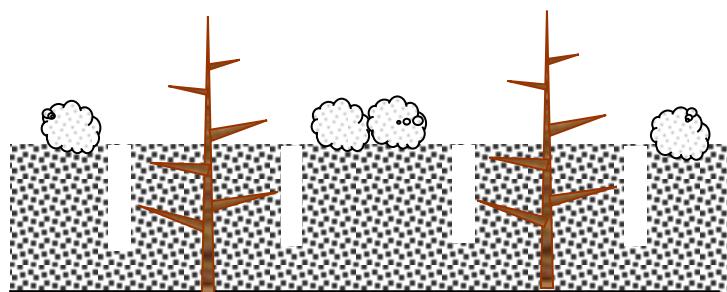


図2 溝切り、雪割り

- オ 喬木では、埋もれた枝だけを掘り出し、枝下や主幹周辺の雪を踏み固める（図3）。

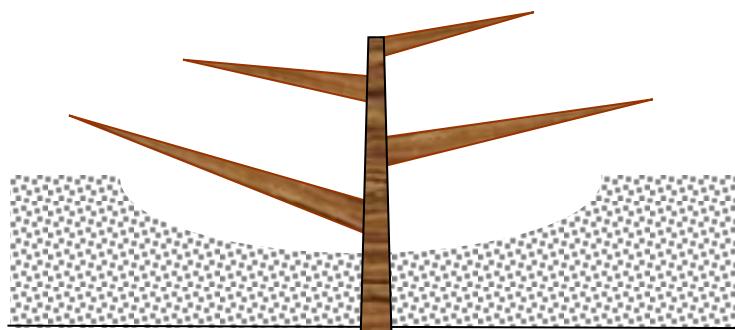


図3 喬木での堀上げ、踏み込み

### (3) 融雪剤（消雪剤）の散布

- ア 雪どけを早めるため、融雪剤を散布する。沈降力により枝幹の損傷が懸念される樹は、枝が引っ張られている部分を中心に、樹冠に散布する。なお、園内の作業性を確保するために、樹間や列間に散布してもよい。
- イ 散布は、晴天が2、3日続きそうな日を選んで早めに行うことが重要である。なお、その後に再び大雪があった場合にはさらに追加して散布するのが望ましい。
- ウ 敷設によって消雪が1週間程度早まるほか、雪質が変化し沈降力の低減にも効果がある。
- エ 融雪剤は、専用剤でなくても炭（粉炭）など、黒色であれば融雪効果が認められる。ただし、作物の生育に悪影響を与えるような資材（例 pHが極端に高いもしくは低い、肥料成分が多い、有害物質が含まれる等）は避ける。
- オ 雪面を小型除雪機等で畠立てをすると、融雪剤の効果が高まる。

表1 融雪材の散布効果（平成15年上川農試調査）

	消雪日	融雪促進日 数	消雪所要 日数	日平均減 雪深
無散 布	4月11 日	—	30日	2.3cm/ 日
散布 区	3月27 日	15日	15日	4.7cm/ 日

融雪材：防散融雪炭カル、100kg/10a、3月12日散布

### (4) 雪掘り、融雪剤散布の、園地毎の順序等

- ア 次の園に対し、まず優先的に雪掘り、融雪剤散布を行う。
  - ・積雪量が多く、沈降力により、樹体損傷、トレリス・垣根最下段線の損傷が懸念される園。
  - ・せん定をしていない園。
- イ 排水対策
  - ・雪溶け水などで、ほ場が冠水しないように排水対策を行う。特に、わい性台木樹や苗木ほ場は優先的に行う。

# 雪害に対するぶどう棚対応技術対策

## 1 棚の立て直しと樹の補強

- (1) 棚が倒壊したものは早急に修復する。
- (2) 倒伏したぶどう樹は、棚の修復とともに早急に立て直す。棚の立て直しを行う場合は、Aマスト棚では、支柱が傾いている場合は棚を起こすことにより、倒れる場合があるので、支えておくか先に倒しておく。帆柱が立っている場合はヘルメットを着用し、安全を確認しながら作業を行う。

作業は15～20名程度のグループで行い、約半数が下から棚を持ち上げ、残り半数が角材の支柱を入れていく。支柱は裂傷したぶどう枝の下側を中心に行う。(園が全壊の場合は50～100本／10a必要)

- (3) 主幹、主枝等が裂傷したものは、カスガイ、ボルト、縄等で早目に接合し、主幹周辺をそのまま支柱で補強する。(避けた場所は癒合しないので)

積雪や棚の補修で春先まで接合できない場合は、凍害防止と傷口から雨水が入らないようシルバー系のビニール類で覆う。



裂けた樹でも生育可能

## 2 今後の雪害予防対策

- (1) 今後の降雪によるぶどう棚の倒壊を防ぐため、支柱を多く使用し、棚線を補強する。
- (2) 今後、降雪時にぶどう棚の除雪を行う場合は、園地中央部から園地外側に向けて、雪下ろしを行う。園地外側から雪を落とし始めると、反対側に重みがかかり、棚のバランスが崩れ再度倒壊する危険性がある。(図1、2参照)
- (3) 棚が損傷したぶどう園では、あらせん定を行い、枝量を減らしておく。
- (4) 雪に埋まった枝は沈降の進まないうちに掘り出す(遅くとも5日以内)。掘り出し作業が困難な場合は、樹冠下の雪踏みを徹底する。
- (5) 特に積雪の多い地域では、施設や農作物被害軽減のため、次により融雪を促進する。
  - ア 雪の表面に消雪促進剤、黒土、焼モミガラ、堆厩肥、木灰等有色のものを散布する。
  - イ 雪面に凹凸のうねをつけ大気と接触する表面積を大きくして融雪を促進する。
  - ウ アとイを併用する。
  - エ 融雪水が多くなるので、排水溝や明きよを掘ってほ場外へ排水する。

図1 平坦地での雪の降ろし

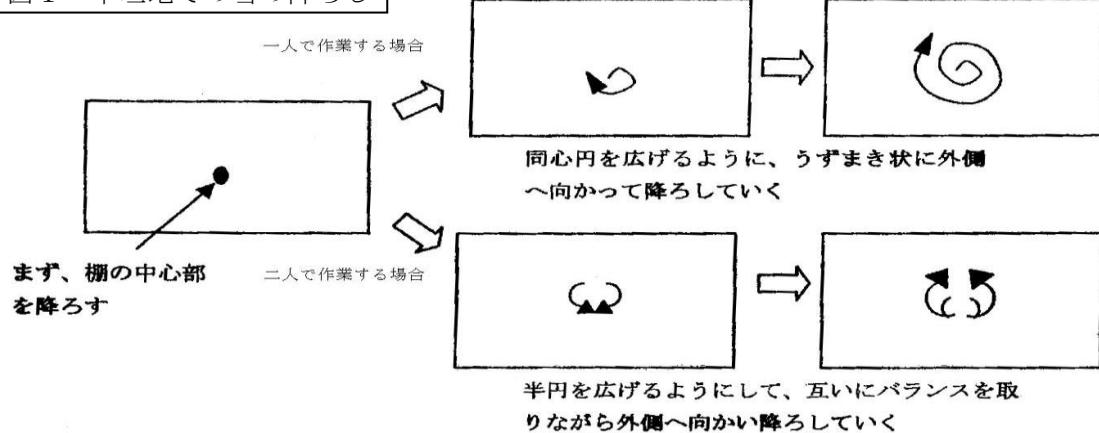
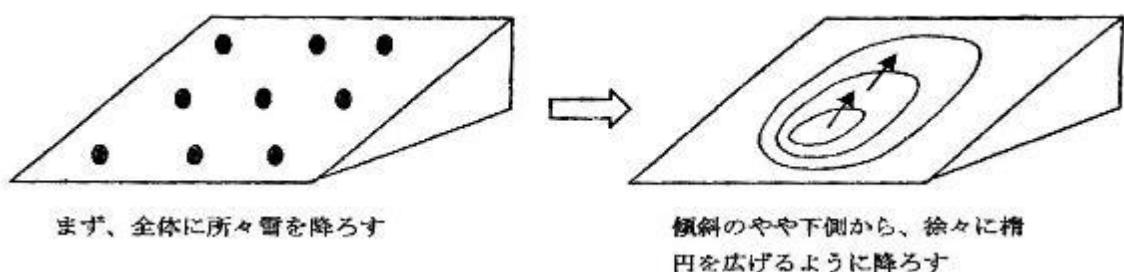


図2 傾斜地での雪の降ろし



# 補助事業について

## ▶ 補助事業とは

「補助事業」とは、「特定の事業の促進を期するため、国または地方公共団体が公共団体・私的団体・個人に補助金を交付する」ものです。

単にお金を補助するだけでなく、行政機関が定める「目的」に沿った事業の成功を助けるためのものであり、返還が不要である反面、その用途が厳密に定められています。

補助金の交付を受けるにあたっては、以下の基本的な約束や流れを理解しておく必要があります。

## ▶ 補助事業者の義務

補助事業は、法令や各種取り決めに従って実施しなければなりません。補助金を承認された事業以外の用途に使用したり、補助金で取得した財産を許可なく譲渡や売却等することはできません。

これらに違反した場合は、補助金の全額または一部を返還する必要が生じます。

## ▶ 補助事業の進め方

市町村が窓口となる、一般的な国の補助事業のスケジュールの例を右図に示しました（当初予算事業の一例）。

毎年2月頃に「要望調査」が市町村やJAを介して実施されます。事業実施を検討している場合は、この時までに市町村やJA、農業農村支援センターへ相談してください。

事業内容が要件を満たし「採択」された場合は、事業実施に向けて「事業計画を申請」し、

「承認」を受ける必要があります。仮に事業実施中に計画内容の変更が必要となった場合は、改めて「変更申請」をして再度承認を受ける

必要があります。

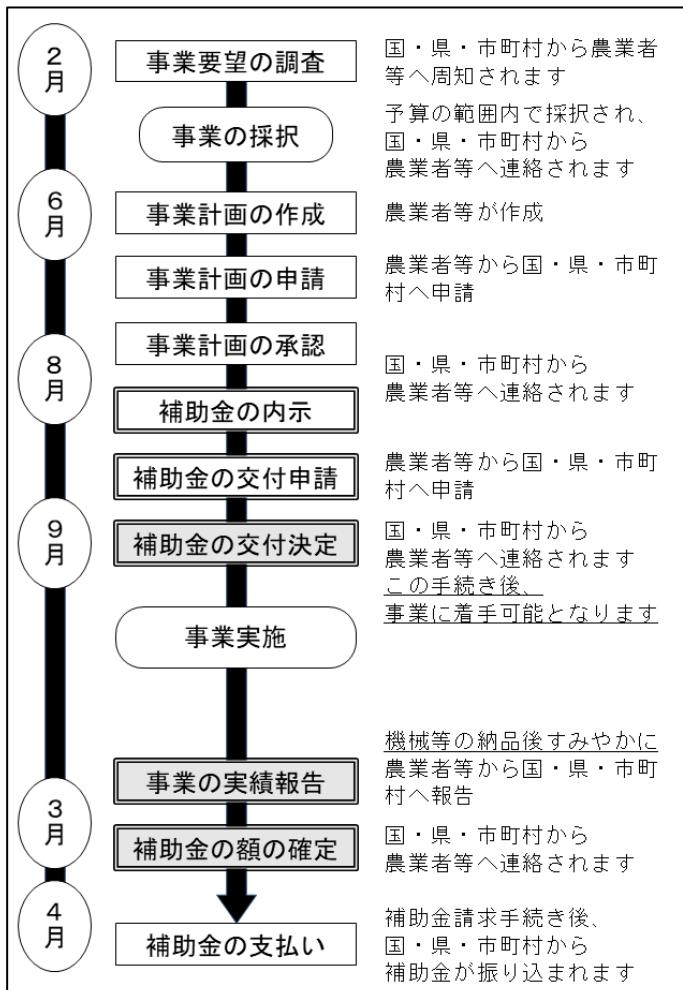
また、事業に着手（業者への発注等）できるのは、「交付決定」を受けた以降です。交付決定前に着手したものは、補助対象外となりますので注意してください。

補助事業は対象となる事業内容や要件が様々です。例えば、国が実施する補助事業については以下の農林水産省HPをご確認いただき、農業農村支援センターや市町村へご相談いただければと思います。

◆参考 「農業経営支援策活用カタログ 2025」

農林水産省HP：[https://www.maff.go.jp/j/kobetu\\_ninaite/n\\_pamph/180529.html](https://www.maff.go.jp/j/kobetu_ninaite/n_pamph/180529.html)

図. 補助事業の一般的なスケジュール





きじま なおき

えみ

## 長野市 木島 直樹さん・詠美さん



### 自己紹介

- ・2年間の里親研修を経て、令和2年に就農しました。今年で就農5年目になります。
- ・トルコギキョウを主軸に、ハウス 20aで栽培しています。
- ・今年は葉ボタンに初挑戦しました！

### ➤ 就農のきっかけ

結婚を機に長野市に来た時に、農業公社のお手伝いの募集があったので参加しました。その時に数件の農家を訪ねたのですが、皆さん技術や知識がとても豊富でかっこよく見え、「こんな農業者になりたい！」と思ったのが農業を始めようと思ったきっかけでした。

地域の農業委員さんに相談したところ、県の里親研修制度を紹介してもらいました。里親研修では、量を栽培すると大変だったり、夏の暑さや冬の寒さなど農業の厳しい面も学ぶことができました。また、里親さんがいろんな人とつなげてくださり、就農するにあたって貴重な人脈をつくることができました。

### ➤ 就農してみて…

毎年同じように栽培してもまったく違う課題に直面するので、自然の偉大を感じています。地域のベテランさんに聞いても分からぬ生理障害(?)がでることもしそうです。「農業は毎年1年生」と言いますが、本当にそ

の通りだと痛感しました。毎日が勉強です。

農業の楽しさも知ることができました。アイデアをどんどん試して自分の考えで栽培できるので、失敗も成功も自分次第ですが、そこがとても楽しく、毎日充実しています。

### ➤ これからの目標

夫婦で長く農業を続けていくことが一番の目標です。長く事業を続けて、気づいたら年を取っていたとなるのが理想です。今は分からぬことだらけで大変ですが、そのころには分かることが増えているといいな～と思っています。

新しい品目にもチャレンジしてみたいです。今年は葉ボタンに初挑戦しましたが、今後はスマートツリーやセダムもやってみたいと思っています。「何をやってみようかな」と考えるのも、とても楽しい時間です。

これからも、もっといい花を作れるように日々勉強していきます！

# 地域のできごと

## 令和7年度「複式農業簿記講座」を開催しました！

令和7年11月12日から12月12日にかけて、長野県農業大学校で「農業複式簿記講座」を全6回開催しました。農業経営の安定には、正確な経営状況の把握が不可欠であり、複式簿記はその基盤となる重要な技術です。本講座では、農業者が簿記の仕組みを理解し、経営管理に活かす力を身につけることを目的としました。受講者は8名でした。

講座は座学3回、パソコン演習2回、最終回のFCP (Food Communication Project) シート作成で構成し、座学では損益計算書や貸借対照表の仕組みを学び、数字から経営の現状を読み取る力を養いました。演習では会計ソフトへの仕訳入力を体験し、記帳作業の流れを理解しました。最後に、複式簿記で得た経営データを基に農産物の価値や経営方針を整理し、消費者に魅力を伝えるFCPシートを作成しました。参加者からは自ら作成したFCPシートについて積極的な発表がありました。

今回の講座を通じ、複式簿記の基本と数字の意味を理解し、記帳を始める第一歩を踏み出した方が多く、今後の経営改善に期待しています。（技術経営係 関谷）

## 長野地域直売所・加工組織研修会を開催しました

令和7年12月4日に「長野地域直売所・加工組織研修会」を開催しました。講師に産直新聞社横川さん、JA秋田おばこしゅしゅえっとまるしぇ店長の藤田さんをお迎えして、POPの意義や作り方について教えていただきました。POPの意義では、POPには色々な種類があり、よくイメージされる商品回りのPOPだけでなく、のぼりやポスターもPOPの一部であるということを教えていただきました。POPの書き方では思わず立ち止まって見てしまうPOPを作るはどうしたらよいかを教えていただきました。

座学の後は実際に絵具を使って自分の商品をPRするPOPの作成を行いました。はじめはどうやって描こうか悩んでいる様子でしたが、しばらくすると皆さん真剣にとりんでいただき、様々な素敵なお手本が出来上がりました。直売所や加工組織等でぜひ活用していただきたいと思います。（技術経営係 岩崎）



先生の作品 受講生の作品

## トルコギキョウプレセミナーを開催しました

新規栽培者の掘り起しを目的として、令和8年3月から開催するトルコギキョウセミナーの前段として、12月9日JAながの屋代支所においてトルコギキョウプレセミナーを開催しました。トルコギキョウの栽培に関心を持っている参加者21名が出席しました。

長野地域では、トルコギキョウの生産者の減少が課題になっており、JAと共に実施しました。参加者は、農業経験のない人から、花き栽培を行っている人まで様々でしたが、3月から開始するセミナーへの参加も見据えて参加している人が多く、トルコギキョウ栽培者が増加することを期待しています。（技術経営係 藤沢）

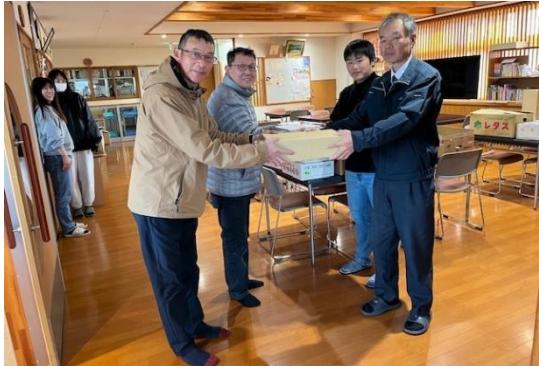


## 地域のできごと

### 農業経営者協会長野支部が児童福祉施設へ農産物を寄贈しました!

農業経営者協会は長野県知事から農業経営士として認定された農業者で構成される団体で、農業への理解の醸成や担い手育成のほか地域社会の発展に貢献する活動を行っています。

長野支部では、令和7年12月18日（木）、長野市と千曲市の4つの児童福祉施設（円福寺愛育園、三帰寮、松代福祉寮、恵愛）へ会員が生産した農産物や加工品を寄贈しました。



この活動は、昭和53年に長野県で「やまびこ国体」が開催されるにあたり国体を盛り上げようと、長野支部の会員が協力して栽培した菊等の花を各県の選手団や関係者が宿泊する旅館・ホテルに贈呈して飾っていただいたところ、選手や関係者の皆さんに大変喜ばれたことがきっかけです。この活動を契機に、長野支部として地域社会に貢献できる活動を模索した結果、翌年には現在のような福祉施設へ会員が生産した農産物等を寄贈する活動をスタートさせました。

この活動により、普段あまり訪れる事のない福祉施設を会員が訪れて、会員自身が福祉への关心と理解を深めるとともに、地元の農業や農産物を地域にPRするよい機会となっています。

毎年、農産物を届けた折には子供たちも笑顔で出向かえてくれ、大変喜んでくれています。年末年始も施設で過ごす子供たちがいることで、クリスマスやお正月を子供たちが明るい笑顔で迎えられることを祈りました。（地域一係 有賀）

### 農村未来つなげるフォーラム 2026を開催しました



令和8年1月15日に「農村未来つなげるフォーラム2026」を開催しました。コロナ禍で休止していた農村女性のつどいを、フォーラムとして新たにスタートしました。昨年度に続き2回目となるフォーラムでは「伝える、つなげる、ふるさとの食育」をテーマに、地域の食文化に関する展示、農村物加工品の販売、講演、ワークショップを実施しました。講演には長野県立大学食健康学科の中澤弥子（なかざわひろこ）教授を講師に招き、地域に残る食文化を未来につなげる活動について事例も交えながらお話をいただきました。

休憩時間には、ふるさとの味を参加者全員で味わおうということで、「にらせんべい」がふるまわれ、大好評でした。

フォーラム後半はグループに分かれて、ふるさとの食文化をどうやって未来につなげればよいかアイデアを共有するためにワークショップを行いました。参加者同士の交流も兼ねたワークショップでは、活発に意見が飛びかい、グループごとにさまざまなアイデアが出されていました。

今回の講演やワークショップで出されたアイデアをもとに、地域の財産でもある食文化を未来につなげていく活動が広まることを期待しています。（地域第一係 矢崎）



## 長野地域 青年クラブ交流会 開催要領

### 1 趣 旨

長野地域では、各地域で農業者クラブが活動を行っており、それぞれ特有の活動の実施や経営の知見を有しているが、広域での交流や情報交換が少ない状況にある。そこで、長野地域の農業振興ならびに農業者の活動及び情報交換をより活発なものとするために、地域の農業青年クラブ間及び農業者との交流を図る。

### 2 主 催

農業土上高井長野支部、長野市農業青年協議会、須高青年クラブ

### 3 日 時

令和8年2月13日（金） 15時30分～17時

### 4 場 所

長野合同庁舎 別館大会議室  
(長野市大字南長野南県町686-1)

### 5 参集範囲

農業土 上高井長野支部、長野市農業青年協議会、須高青年クラブ、  
参加を希望する管内の青年農業者

### 6 開催内容

意見交換会（関心のあるテーマの分科会に参加してグループワークを行う）

- (1) 「農産物の販路について」
- (2) 「労働力の確保について」
- (3) 「高温対策について」

※申込の際に、参加したい分科会の希望を登録してください。人数調整のため、第1希望以外の分科会となる場合がありますので、ご了承ください。

### 7 申込み

URL または QR コードからお申し込みください。

<https://forms.office.com/r/CvhrPTnxF2>



申込期限:1月30日(金)

### 8 その他

交流会終了後、希望者で懇親会を予定しています。

「居酒屋 4410」（仮） 17:30～

会費 : 4,000 円



# 長野地域 青年クラブ交流会

[令和8年2月13日(金) 15:30~17:00]

・場所： 長野合同庁舎 別館大会議室

・内容： テーマ別グループワーク

- ✓ 農産物の販路
- ✓ 労働力の確保
- ✓ 高温対策

・申込： QRコードよりお申込ください



〆切1月30日(金)

参加費  
無料

普段交流の少ない他地域の農家と交流しませんか？  
新たな発見の機会にご参加ください！

問合せ先  
長野県 長野農業農村支援センター  
TEL: 026-234-9515

情報交換会  
居酒屋4410(仮)  
会費 4,000円

参加費  
事前申し込み 不要

# 長野地域果樹生産振興研修会

果樹に係る知識の取得と栽培技術向上のための研修会を開催します

**令和8年2月4日(水)**

**13時30分～16時30分まで**

会場

**長野市東部文化ホール**

(長野市大字小島804-5)



会場案内図



講演内容  
(予定)

- ・高温がりんご果実品質と生産性に及ぼす影響について

講師:長野県果樹試験場栽培部 土田河氏

- ・果樹栽培における農作業安全について

講師:(一財)日本農村医学研究所 柳澤和也氏

- ・果樹栽培における獣害対策について

講師:長野県クマ対策員 NPO法人信州ツキノワグマ研究会 岸元良輔氏

【問い合わせ先】 長野地域園芸振興推進協議会(長野農業農村支援センター)

TEL:026-234-9514 MAIL:nagano-nogyo@pref.nagano.lg.jp